

国内希少野生動植物種に追加する種の概要について

<昆虫類>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>1. タカネキマダラセセリ 赤石山脈亜種 (タカネキマダラセセリ南アルプス亜種) (<i>Carterocephalus palaemon akaishianus</i>)</p> <p>分類：セセリチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有亜種</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	<p>成虫は小型 (開張：♂ 26～28 mm、♀ 27～30 mm)。翅形は一般的なセセリチョウ科の種と比べてかなり横長。翅表は黒褐色で、前翅の中室と外中央および後翅の亜基部と中央に橙黄色の斑紋がある。翅裏は黄色を帯びた褐色で、斑紋は翅表と似るがやや淡色、さらに外縁と亜外縁に黄褐色の斑列がある。</p> <p>本種の良い生息環境は、標高2,000m前後の沢ぞいに見られる食草のイワノガリヤス群落で構成された斜面状の草付きで、森林限界よりも下で形成される林縁や樹林がまばらに立つ草地を好む。また、単なる食草だけの群落ではなく、成虫の吸蜜植物も含めた多様な植生環境が求められる。</p>
		②分布域	山梨県、長野県、静岡県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発による生息地減少、採集圧、シカの採食による食草の減少。
		④その他	<p>生息地は南アルプス国立公園の特別保護地区あるいは特別地域に含まれる。</p> <p>長野県の天然記念物に指定されている。</p> <p>長野県指定希少野生動植物に指定されている。</p>
<p>2. オガサワラセセリ (<i>Parnara ogasawarensis</i>)</p> <p>分類：セセリチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>成虫は小型 (開張：♂ 27～29 mm、♀ 29～31 mm)。翅表は黒褐色で、前翅の中央部に長方形または矢尻形をなす大小 2 つの白紋からなる斑列 (稀に小白斑が 2 つ) と中室に 2 つの小さな短白条があり、後翅の外中央部に長方形または正方形をなすやや大きな 2 つの白紋からなる斑列 (時に小白斑がもう 1 つ出現) と中央部の中室端に 1 つの小白斑が見られる。翅裏はやや橙色味を帯びた黄褐色で、翅表と同様の白斑が点在する。</p> <p>本種の生息には、海岸沿いに見られる複数箇所の広大なオガサワラススキ群落の維持が重要である。また、成虫は一年を通して吸蜜植物が必要となる。</p>
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発行為や遷移進行による生息地の減少、グリーンアノールによる捕食、外来植物による植生変化。
		④その他	<p>分布地は、小笠原国立公園特別保護地区および特別地域に含まれる。</p> <p>インターネットオークションによる成虫標本の取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>3. ヒメチャマダラセセリ (<i>Pyrgus malvae unomasahiroi</i>)</p> <p>分類：セセリチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有亜種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>成虫は非常に小型 (開張 20～22 mm 内外)。翅表の地色は黒褐色で、前翅表面ではほぼ全室に半透明の微小な白斑が現れる。後翅表面は中央部および亜外縁部に微小の白斑が並ぶ。裏面の地色は淡緑褐色で、裏面白斑の現れ方は翅表と大差はないが、後翅ではその基部には翅表には存在しない 2～3 個の小白斑がある。縁毛は白色で長く、翅脈端部が黒褐色となり、白色と黒褐色の顕著な縞模様になる。</p> <p>高山帯尾根部のカンラン岩の地質上に広がる礫の露出した高山植物群落 (お花畑) が生息条件と考えられる。</p>
		②分布域	北海道に分布する。
		③存続を脅かす要因	遷移進行による植生変化 (ハイマツやゴヨウマツ群落の拡大)、シカの採食による食草の減少。
		④その他	<p>国の天然記念物に指定されている。</p> <p>北海道の指定希少野生動植物に指定されている。</p> <p>生息地の植生も「アポイ岳高山植物群落」として天然記念物に指定されている。</p> <p>生息地は日高山脈襟裳国定公園の特別保護地区に含まれる。</p>

＜貝類＞

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
4. オオアガリマイマイ <i>(Nesiohelix omphalina bipyramidalis)</i> 分類：オナジマイマイ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) 固有亜種	ア、ウ	①種の特徴	貝殻は中形（殻長 17.7～21.5mm、殻径 25.0～31.8mm）、低円錐形状で堅固。螺層は6.0層。地色は黄褐色を呈する。体層周縁は著しい龍骨をめぐらしている。色帯は不鮮明で体層周縁の上下の2本の褐色帯を具える。殻底は良く膨れていて、その臍孔部は窪んでいて狭くて深い。臍孔の一部は軸唇で覆われる。殻表は粗造で粗い成長脈の上に密に散布した顆粒によってサメ肌状となる。軟体の頭部背面は黒みの強い褐色、足の背面はやや色が薄くなる。 現在生貝が生存しているのは、石灰岩礫の上にピロウなどの落葉が積み重なり、湿度の保たれた自然林が多い。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発や乾燥化に伴う生息地の減少、外来種による影響（ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食、ミヤコマイマイとの競合、ギンネム等の外来植物による植生変化）。
		④その他	生息地は国指定大東諸島鳥獣保護区特別保護地区に含まれる。インターネットオークションによる取引が確認されている。
5. ヘソアキアツマイマイ <i>(Nesiohelix omphalina omphalina)</i> 分類：オナジマイマイ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) 固有亜種	ア、ウ	①種の特徴	貝殻は殻径約24mm、低い卵円錐形で厚く、周縁は丸い。様々な色帯型を持つが、必ず臍孔周辺には色帯を欠き、白～淡黄褐色となる。殻表はほぼ平滑で顆粒はなく、細かい成長脈のみを持つ。殻口は白～小豆色で強く肥厚し、反転する。臍孔はやや狭いが明瞭に開く。軟体の頭部背面は黒みの強い褐色、足の背面はやや色が薄くなる。 現在唯一生貝が生存しているのは、石灰岩礫の上にピロウの落葉が積み重なり、湿度の保たれた自然林である。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発や乾燥化に伴う生息地の減少、外来種による影響（ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食）。
		④その他	生息地は国指定大東諸島鳥獣保護区特別保護地区に含まれる。 インターネットオークションによる取引が確認されている。

＜維管束植物＞

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>6. ツルギテンナンショウ (<i>Arisaema abei</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>多年草。植物体はホソバテンナンショウやムロウテンナンショウに似て高さ90cmに達する。花期は5～6月。花序柄は葉柄とほぼ同長かより長く、仏炎苞は葉身に遅れて展開し全体緑色、筒部は円筒形で口辺部は狭く反曲し、舷部は筒部より短く、広卵形で基部がやや横に張り出し、内面および縁は平滑。花序付属体は有柄で棒状、黄緑色～黄褐色をおび、上部は仏炎苞筒口部から明らかに露出し、舷部に沿って前に曲がり、いちじるしいしわがある。染色体数2n=28。四国の山地に分布する。ブナ帯の林下に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>徳島県、愛媛県、高知県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取、シカ食害、ササの繁茂等の遷移の進行による生育環境の変化。</p>
		<p>④その他</p>	<p>剣山国立公園における特別地域内指定植物である。生育地は、剣山国立公園の特別地域、石鎚国立公園の特別地域、国指定剣山山系鳥獣保護区特別保護地区、国指定石鎚山系鳥獣保護区特別保護地区県指定自然環境保全地域等に含まれる。 日本植物園協会加盟園での保有あり。播種による栽培増殖は可能であるが、長期栽培は困難である。 インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>
<p>7. オドリコテンナンショウ (<i>Arisaema aprile</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>高さ15～30 (～40)cm。葉は地下の球茎につき、葉序は2列斜生、腋芽は単生し、ときに子球に発達する。5月頃地上に葉と花序を出し、まず花序を展開する。葉は2個でほぼ同大、ときに1個、偽茎部と葉柄部はほぼ等長、通常緑色、偽茎部の開口部は襟状に開出する。葉身は5 (～7) 小葉に分裂し小葉間に葉軸はほとんど発達しない。小葉は楕円形ないし広楕円形で両端は次第に狭まり、ときに不規則な粗い鋸歯がある。花序柄は花時には葉柄とほぼ同長。仏炎苞は緑色で白糸が目立たず、縁のみ紫がかかることがあり、口部はやや開出し、舷部は長卵形で先は次第に尖る。花序付属体は淡色で有柄、棒状。1子房中に6～9個の胚珠がある。果実は赤熟する。染色体数は2n=28。ブナ帯の落葉樹林下に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>静岡県、山梨県、神奈川県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>各種開発による生息地の減少、採取、遷移の進行による生育環境の変化。</p>
		<p>④その他</p>	<p>生育地は、富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区、特別地域に含まれる。 日本植物園協会加盟園での保有あり。播種等による栽培増殖が可能であるが、長期栽培は困難である。 インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>8. ホロテンナンショウ (<i>Arisaema cucullatum</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>多年草。高さ20～45cm。雌雄偽異株で雄株から雌株へ完全に転換する。5～6月頃地上に葉と花序を出す。葉は1個で偽茎部は短く、葉柄部はより長くて斜上し、鳥足状の葉身を水平に展開する。小葉は7～13枚、狭披針形から狭楕円形、先は次第に細くなる。小葉間の葉軸は発達せず、中央部の小葉から外側に向かってやや急に小さくなる。花序柄は短く、仏炎苞は葉身よりも下につき、直立し、淡緑色に淡紫色を帯び、太い白条が目立ちやや半透明、筒部は円筒状で次第に上に開きやや前に曲がり、口辺部は開出せず、内巻きする長三角形の舷部に続き、舷部の先は長く伸び、アーチ状に前に曲がる。花序付属体は有柄で細棒状。1子房中に10～15個の胚珠がある。果実は赤熟する。染色体数は2n=28。本種は仏炎苞が内巻きすることで独特の種である。全体的にセツピコテンナンショウと似ているが、仏炎苞の形状のほか、染色体数でも異なるので明らかに区別できる。山地の林下に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>三重県、奈良県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取。</p>
		<p>④その他</p>	<p>生育地は、鈴鹿国定公園の特別保護地区、特別地域、吉野熊野国立公園の特別保護地区、特別地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区、県指定鳥獣保護区特別保護区域等に含まれる。</p> <p>播種等による栽培増殖は可能である。</p> <p>インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>
<p>9. イナヒロハテンナンショウ (<i>Arisaema inaense</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>多年草。高さ25～50cm。葉は地下の球茎につき、葉序は2列斜生、腋芽は単生し、子球に発達する。5～6月頃地上に葉と花序を出す。葉は通常1個で、偽茎部は葉柄部とほぼ同長、葉身は5～7小葉に分裂し小葉間の葉軸は発達しない。小葉は狭楕円形で先が尖り、全縁。花序柄は襟状に波うつ偽茎の開口部から短く抜き出る。仏炎苞は葉身に遅れて聞き、淡紫褐色でやや緑色を帯び、筒部に著しく隆起する白色の縦条があって舷部に続き、筒部の口辺は狭く開出し、舷部は倒卵形で先が尖り、筒部よりも長い。花序付属体は有柄で太棒状、先はやや頭状に膨らみ仏炎苞筒部から短く露出し淡紫褐色。果実は赤く熟す。染色体数は2n=26。山地帯の落葉広葉樹林の林床に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>長野県、岐阜県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
		④その他	<p>生育地は、中部山岳国立公園の特別地域、中央アルプス県立自然公園の特別地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区、御岳県立自然公園の特別地域、せせらぎ溪谷県立自然公園の特別地域、位山舟山県立自然公園の特別地域、宇津江四十八滝県立自然公園の特別地域、御嶽山県立自然公園の特別地域、野麦県立自然公園の特別地域、県指定自然環境保全地域、県指定鳥獣保護区特別保護区域等に含まれる。</p> <p>播種等による栽培増殖は可能である。</p> <p>インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>
<p>10. イシヅチテンナンショウ (<i>Arisaema ishizuchiense</i> ssp. <i>ishizuchiense</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。高さ15～35cm。雌雄偽異株で雄株から雌株へ完全に転換する。葉は地下の球茎につき、葉序は2列斜生、腋芽は単生し、ときに子球に発達する。6月頃地上に葉と花序を出し、まず花序を展開する。葉は1個、まれに2個、偽茎部はやや短く、葉柄は葉身の展開時には偽茎部より長くなる。葉身は5(～7)小葉に分裂し、小葉間に葉軸はほとんど発達しない。小葉は狭楕円形ないし披針形で両端は次第に狭まり、ときに不規則な鋸歯がある。花序柄は通常葉柄より長く。時にやや短く、仏炎苞は大型で、高さ5～8cm、紫褐色で斑があり、外面はやや緑色を帯び、筒部は円筒状で上に向かって開き、口辺部はやや開出し舷部は卵形で先が鋭く尖る。花序付属体は仏炎苞とほぼ同色、有柄で太く棍棒状。1子房中に8～12個の胚珠がある。染色体数は2n=28。四国のブナ帯の山地の林中にはえる。</p>
②分布域	高知県、徳島県、愛媛県に分布する。		
③存続を脅かす要因	採取、シカ被害。		
④その他	<p>剣山国定公園、石鎚国定公園の特別地域内指定植物、笹ヶ峰自然環境保全地域の特別地区内の野生動植物保護地区では保護すべき野生動植物種に指定されている。</p> <p>生育地は、石鎚国定公園の特別地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区、皿ヶ峰連峰県立自然公園の特別地域、都道府県指定鳥獣保護区特別保護区域に含まれる。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。播種等により栽培増殖は可能であるが、長期栽培は困難である。</p> <p>インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>		

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>11. アマガテンナンショウ (<i>Arisaema kuratae</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>伊豆半島の林下の斜面に生える多年草。高さ15～30cm。雌雄偽異株で雄株から雌株に完全に転換する。4～5月頃地上に葉と花序を出す。葉は1個で偽茎部は葉柄部より短く、時には地上に出ない。葉身は鳥足状に分裂し、小葉間の葉軸はやや発達する。小葉は5～7枚、楕円形から長楕円形、しばしば不整な粗い鋸歯があり、白斑をもつこともある。花序柄は葉柄部より著しく短く、仏炎苞は厚く革質で紫褐色、ときに緑色、やや半透明の白い縦条があり、筒部は上に開いた円筒状で口辺部は開出せず、舷部は三角状の広長卵形で前に曲がり、中央部は盛り上がる。花序付属体は有柄で太棒状、しばしば白色となる。1子房中に4～6個の胚珠がある。果実は赤熟する。染色体数は2n=28。キリシマテンナンショウによく似ているが、仏炎苞舷部が卵形で、筒部より明らかに短いこと、筒部が上に向かって次第に広がり、急に太くならないことで区別できる。川沿いの谷とその周辺に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>静岡県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>各種開発による生育地の減少、採取。</p>
		<p>④その他</p>	<p>生育地は、富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区、特別地域に含まれる。 日本植物園協会加盟園での保有あり。播種による栽培増殖は可能である。 インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>
<p>12. ナギヒロハテンナンショウ (<i>Arisaema nagiense</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>多年草。高さ10～40cm。葉は地下の球茎につき、葉序は2列斜生、腋芽は単生し、時に子球に発達する。5～6月頃地上に葉と花序を出す。葉は通常1個で、葉柄部は偽茎部よりやや長くなり、葉身は5～7小葉に分裂し、小葉間の葉軸は発達しない。小葉は線形～狭披針形で先が尖り、全縁。花序柄は葉柄部より短く、襟状に波うつ偽茎の開口部から抜き出る。仏炎苞は葉身より早く開き、外面は緑色を帯びた紫褐色で、筒部に著しく隆起する白色の縦条があり、筒部の口辺は狭く開出し、舷部は内面が紫褐色で光沢があり、狭三角形～三角状狭卵形で先が細まり、筒部よりも長い。花序付属体は有柄で棒状、仏炎苞筒部からほとんど露出せず、紫褐色で先は色が薄く黄色がかっている。果実は赤く熟す。染色体数は2n=26。山地に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>兵庫県、岡山県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取。</p>
		<p>④その他</p>	<p>生育地は、氷ノ山後山那岐山国定公園の特別保護地区、特別地域、音水ちくさ県立自然公園の特別地域、都道府県指定鳥獣保護区特別保護区域に含まれる。 播種等による栽培増殖は可能である。 インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>13. オガタテンナンショウ (ツクシテンナンショウ) (<i>Arisaema ogatae</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>多年草。葉は2個で、葉柄は花柄より長く、基部に偽茎あるいは花柄を抱くひだができる。小葉は5~7枚で狭倒卵形、短く尾状鋭尖頭。頂小葉は両隣の側小葉よりもやや小さい。花柄は3~5.5cm、花後もほとんど伸びない。花期は4~6月。仏炎苞は緑色、舷部は広卵形で、筒部とほぼ同長、基部は狭まらず、鋭頭で、前に曲がる。付属体は短く、筒部とほぼ同長あるいはわずかに長く、太い棒状で、長さ3~4 (~7)cm、径6~7 (~13)mm。ユモトマムシグサに近縁と考えられているが、葉柄の基部にひだが出ることで、頂小葉がやや小型で、付属体が太く短いことなどで異なる。山地の暗い林下に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>宮崎県、熊本県、大分県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>各種開発に伴う生育地の減少、採取、シカ食害。</p>
		<p>④その他</p>	<p>生育地は、霧島錦江湾国立公園の特別保護地区、特別地域、九州中央山地国立公園の特別地域、祖母傾国立公園の特別保護区、特別地域、国指定白髪岳自然環境保全地域、森林生態系保護地域の保存地区、保全利用地区、国指定霧島鳥獣保護区特別保護地区、県指定鳥獣保護区特別保護地区等に含まれる。播種等による栽培増殖は可能である。インターネットオークション及びインターネットショップによる取引が確認されている。</p>
<p>14. セツピコテンナンショウ (<i>Arisaema seppikoense</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>多年草。高さ20~50cm。雌雄偽異株で雄株から雌株へ完全に転換する。5~6月頃地上に葉と花序を出す。葉は1 (~2) 個で偽茎部は短く、開口部は花序柄に密着し葉柄部ははるかに長くて斜上し、鳥足状の葉身を水平に展開する。小葉は5~9枚、狭披針形から広線形、しばしば中脈に沿って白斑があり、先は次第に細まる。小葉間の葉軸は発達せず、小葉は中央から外側に向かってやや小さくなる。花序柄は雄ではごく短く、花序は葉身よりも下につき、直立し、雌では花序柄が葉柄よりやや短く、花序は葉身とほぼ同じ高さにつく。仏炎苞は通常紫褐色で白条が目立ち、稀に黄緑色、内側は著しい光沢があり、筒部は円筒状で次第に上を開き、口辺部は開出せず、卵形から三角状卵形の舷部に続き、舷部の先は鋭尖頭で時に尾状に伸び、斜上する。花序付属体は有柄で細棒状。1子房中に約13個の胚珠がある。果実は赤熟する。染色体数は2n=26。山地の斜面に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>兵庫県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取、土砂崩れ等の自然災害による生育地の減少、産地局限。</p>
		<p>④その他</p>	<p>生育地は、雪彦峰山県立自然公園の特別地域、笠形山千ヶ峰県立自然公園の特別地域、朝来群山県立自然公園の特別地域、都道府県指定自然環境保全地域に含まれる。播種等による栽培増殖は可能である。インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>15. シシキカンアオイ (シジキカンアオイ) (<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	常緑の多年草で、花は母種サンヨウアオイに似ているが小さく径10～13mm、上部で強くくびれた汚紫褐色の萼筒をもち、また、葉も母種より小さく、長さ4～5cm、幅3～4cmで鈍頭、小円形。肉質で厚く、表面の葉脈が陥入して細かいしわ状にみえることが特徴である。花期は4月頃。落葉樹の混じる、明るい常緑低木林に生育し、比較的手入れのされた植林下が代替的に生育地となっているようである。主に北斜面に見られるのは、夏期の乾燥、地温の上昇に対し、比較的水分が保たれる環境が必要と考えられる。
		②分布域	長崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	採取、産地局限。
		④その他	西海国立公園の指定植物である。長崎県未来につながる環境を守り育てる条例では、平戸市において採取・損傷が禁止されている。生育地は西海国立公園の特別地域に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。株分けや地下茎の切断、種子播きによる増殖が可能である。地元において監視が行われている。インターネットオークションによる取引が確認されている。
<p>16. ジュロウカンアオイ (<i>Asarum kinoshitae</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	花は冬に開花し、萼筒と萼裂片の接合部に発達する口環が萼筒の内側に入り込む。花柱の付属突起は深く2裂し、萼裂片には小突起がある。葉は三角状楕円形で長さ6-9 cm、幅3-6 cm。花はふつう褐紫色で12月から1月に咲く。葉の形はカンアオイに似るが、花は12～1月に開く。がく筒は13～16mm と長く、形は中間で一度軽くくびれた特異な筒形である。その形が七福神の寿老人の頭に似ることから、この名が与えられた。がく頭の口環が発達するため、入口が極端に狭くなることも特徴の1つである。現在、紀州が唯一の生息地となっており、常緑広葉樹林内に生育する。
		②分布域	三重県に分布する。
		③存続を脅かす要因	採取。
		④その他	三重県の天然記念物である。また、三重県自然環境保全条例の三重県指定希少野生動植物種に指定されている。定期的なパトロール及び生息状況の調査が行われている。株分けや地下茎の切断、種子播きによる増殖が可能である。インターネットオークションによる取引が確認されている。

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>17. モノドラカンアオイ (<i>Asarum monodoriflorum</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>常緑の多年草。葉身は卵心形で長さ5～8cm、幅4～6cm、基部はハート型、先端はやや尖る。葉表面は暗緑色で光沢はなく有毛でピロード状、薄緑色の斑紋や点紋があるか無地、裏面は帯紫色で、脈上に短毛がある。葉柄は暗紫色で4～10cm、軟毛がある。萼筒は長さ8mm、幅9mmで口環あり。萼裂片は萼筒よりもやや大きく、広い卵形で縁は反り、長さ7mm、幅10mm、基部にやや皺がある。萼裂片の上面は密毛が生え、下面は無毛。雄蕊は12個、雌蕊は6個。ごく限られた山地の林床の湿り気のある立地に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>沖縄県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>産地局限、採取。</p>
		<p>④その他</p>	<p>西表石垣国立公園の指定植物である。生育地は西表石垣国立公園の特別保護区域、西表島森林生態系保護地域の保存地区、国指定鳥獣保護区特別保護地区に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。株分けや地下茎の切断、種子播きによる増殖が可能である。インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>
<p>18. ホシザキカンアオイ (<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>常緑多年草。本種の形態はサカワサイシンに似ているが、大きな相違点は萼片中央部から上部にかけて幅が極端に狭くなり、より尾状に伸びる。開花期は4～5月。他の特徴は母種のサカワサイシンに類似しており、葉身が楕円形、卵形または広卵形で長さ6～12cm、幅4～7cm、基部は深い心形で、先は鋭頭、表面にはやや光沢があり、脈上と縁に短毛がある。葉柄は6～15cmで無毛。萼筒は半球形で長さも径も約1cm、上部はいちじろしくくびれ、内壁には縦に高く隆起したひだが18本ほどある。萼裂片は卵状長楕円形で斜めに伸び、長さ2～3cm、先は鈍頭、基部にはしわ状に隆起したひだがある。花柱は6個で円柱状、雄蕊は12個で花柱をとりかこむように配置する。雄蕊の外側には棍棒状の退化花弁が3個ある。明るい植林地や二次林でやや陽のあたる環境で、山腹や谷間斜面の岩屑の混じる崩れ気味の斜面に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>高知県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取。</p>
		<p>④その他</p>	<p>足摺宇和海国立公園の指定植物である。生育地は足摺宇和海国立公園の特別保護地区、特別地域、林木遺伝資源保存林、高知県指定鳥獣保護区特別保護地区に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。株分けや地下茎の切断、種子播きによる増殖が可能である。インターネットオークション及びインターネットショップによる取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>19. サツマアオイ (<i>Asarum satsumense</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種 (ただし、最近台湾北部にも産するとの報告がある。)</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	常緑多年草。葉や花の構造はタイリンアオイに似ており広卵状楕円形。萼筒はやや小さく、萼筒口はより広くなり、萼裂片の縁はより強くうねる。萼筒内壁のひだは上半部では格子状であるが、下半部では縦ひだのみになる。また、花柱の上部の付属突起は短い耳状あるいは角状になる。常緑樹林の林床や林縁に生育する。
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	採取、各種開発による生育地の減少。
		④その他	生育地は坊野間県立自然公園の特別地域に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。株分けや地下茎の切断、種子播きによる増殖が可能である。インターネットオークションおよびインターネットショップによる取引が確認されている。
<p>20. ヤエヤマカンアオイ (<i>Asarum yaeyamense</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	常緑の多年草。葉は卵形で長さ10～20cm、幅8～13cm、基部はハート型、先端はやや長く尖る。葉表面は帯緑色で光沢があり無毛、斑紋はほとんど目立たず、裏面は青白色を帯びた緑色、無毛。萼筒は筒形で上部は急にくびれ、長さ10～15mm、幅10～13mm、口環あり。萼裂片は緑紫色、卵形で縁は反らず開出し、上面・下面に軟毛が生え、皺があり、縁も縮れ毛が多い。雄蕊は12個、雌蕊は6個。山地の林床や溪流沿いの崖に生える。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、採取。
		④その他	西表石垣国立公園の指定植物である。生育地は西表石垣国立公園の特別地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。株分けや地下茎の切断、種子播きによる増殖が可能であるが、本種の増殖効率は悪い。インターネットオークションによる取引が確認されている。
<p>21. オトメシダ (<i>Asplenium tenerum</i>)</p> <p>分類：チャセンシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧II類 (VU)</p>	ア、ウ	①種の特徴	常緑性のシダで、根茎は斜上し、葉柄は10～16cm、緑色で褐色を帯びることがある。葉柄の鱗片は基部に多く、三角状披針形で、茶褐色～黒褐色、長さ2.3～3.5mm。葉身は披針形で1回羽状複生。長さ16～26cm、幅5.2～7.7cm。鈍頭で柔らかい革質、緑色。葉身の鱗片は主に背軸側の軸上にあり、三角状披針形、茶褐色～黒褐色。側羽片は長楕円状被針形で、長さ2.6～3.7cm、13～20対ある。孢子囊群は線形で羽片の中肋と辺縁の中間にある。葉軸の羽片分岐点に無性芽をつけることがある。山地の湿った場所、岩上や林床、溪流沿いなどに生える。
		②分布域	東京都、沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限。

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
		④その他	<p>小笠原の生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区や、石垣西表国立公園の特別保護地区、特別地域に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。 インターネットオークションによる取引が確認されている。</p> <p>一部の生育地では、20年ほど前に採取により個体数が激減した。</p>
<p>22. ヒュウガシケシダ (<i>Deparia minamitanii</i>)</p> <p>分類：メシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>常緑性。根茎は直立し、葉を叢生し、葉は二形。葉柄は基部に鱗片があり、全体に毛があり、孢子葉で長さ25～35cm、栄養葉で8～15cm。孢子葉の葉身は広披針形、長さ15～20cm、幅7～10cm、単羽状深裂、草質。栄養葉の葉身は卵状披針形、急に鋭尖頭、下方に向けてわずかに狭くなり、長さ8～20cm、幅5～10cm。孢子囊群は長楕円形、一つの脈に1個。低山地の沢沿いの林内、常緑林内の湿地に生育する。</p>
		②分布域	熊本県、宮崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発による生育地の減少、シカの食害。
		④その他	<p>生育地は九州中央山地国定公園の特別保護地区、特別地域、森林生物遺伝資源保存林、宮崎県指定鳥獣保護区の特別保護地区に含まれる。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p>
<p>23. フクレギシダ (<i>Diplazium pin-faense</i>)</p> <p>分類：メシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、エ	①種の特徴	<p>常緑のシダ植物。根茎は短く、直立から斜上する。葉柄は長さ20cm、わら色。葉身は単羽状、草質、はっきりした頂羽片をもち、羽片は3対くらい。葉柄は長さ20cmに達し、下部に鱗片がある。葉身は2～3(～5)対の側羽片と、それと同形同大の頂羽片からなる単羽状で、長さは20cmに達し、幅は長さよりやや小さく、卵形となる。孢子囊群は羽片の中肋に接するところから辺縁近くまで伸び、長さ1～1.5cm、包膜はチャセンシダ型。常緑樹林内の湿った岩場に生育する。</p>
		②分布域	佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	採取、自然災害および各種開発に伴う生育地の減少。
		④その他	<p>熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例で指定希少野生動植物に指定されている。</p> <p>生育地は西海国立公園の特別地域、雲仙天草国立公園の特別地域、甕島国定公園の特別保護地区、特別地域、蘭牟田池県立自然公園の特別保護地区、長崎県指定鳥獣保護区特別保護地区等に含まれる。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p> <p>栽培は難しい。熊本県および佐賀県の個体の遺伝子解析が行われている。佐賀県の生育地の一部では地元によりパトロールが行われている。</p> <p>インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>24. ムニンミドリシダ (<i>Diplazium subtripinnatum</i>)</p> <p>分類：メシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	常緑性のシダで、根茎はやや長く匍匐し、葉の出る間隔は狭い。葉柄は17～27cm、淡緑色で基部は褐色。葉柄の鱗片は全体にまばらにあり、披針形～狭披針形、全縁、褐色～黒褐色で3.8～6.5mm。葉身は三角状広卵形、長さ33～44cm、幅31～44cm、3回羽状中裂～複生。草質で、鮮緑色。葉身の鱗片は葉軸・羽軸・小羽軸の背軸側にごくまばらにあり、披針形、全縁で褐色。側羽片は長楕円状披針形、有柄で柄の長さは長さ2.1～4.2cm、側羽片の長さは14～25(～35)cm、21～25対ある。孢子嚢群は長楕円形で、裂片の中肋と辺縁の中間生である。山地のやや湿った林下のごつごつした岩の上に生える。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、踏みつけ等。
		④その他	小笠原国立公園における指定植物である。生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。
<p>25. ユズリハワダン (<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>)</p> <p>分類：キク科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	常緑小低木。枝はあまり分かれず、葉は互生し、茎頂に集まるが、ヘラナレン (VU) ほど密生しない。長い葉柄があり、葉身は狭長楕円形で十数cm以内、先端はとがり、全縁で縁はやや波打ち、主脈は赤みを帯びる。秋から冬に枝先の葉腋から総状花序を伸ばし、多数の白い頭花をつける。花序の主枝からまばらに短い側枝を出し、全体として幅の狭い総状花序状を示す。頭花は白色の5個の舌状花よりなる。山地のやや湿った疎林内に生育する。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	動物 (ノヤギ) による食害、外来植物による被圧、乾燥化による生育環境の変化。
		④その他	小笠原国立公園の指定植物である。生育地は、小笠原国立公園の特別保護地区、小笠原諸島森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>26. ミクラジマトウヒレン (<i>Saussurea mikurasimensis</i>)</p> <p>分類：キク科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>多年草。中型の多年生草本で、高さ40～55cm。茎に条があり、上部に翼がないか、狭い翼がある。茎は2～5回分枝し、上部は有毛。花期にも根生葉が残る。下部の茎生葉は、革質で、卵状心形、基部は深い心形で先端は鋭形、長さ10～14cm、幅8～10cm、粗い鋸歯があり、葉の両面には疎らに軟毛が生える。上部の茎生葉は心形で先端は鋭形、長さ3～7cm、幅2～6cm、粗い鋸歯があり、葉の両面には疎らに軟毛が生える。</p> <p>花期は10～11月。頭花は4～7個が、散房状に密集してつく。頭花の柄は5～10mmで軟毛が密集する。総苞は広筒形で直径5～6mm、長さ12～14mm。総苞片は5～6列、やや肉質で鈍い光沢が認められる。総苞片の外片は卵形で長さ3mm、先端は微突形。内片は披針形で長さ10mm、先端は鋭形、縁に沿って赤紫色をおびる。剛毛は長さ5～6mm。花は薄紫色で長さ8mm、裂片は長さ4mm、葯は長さ5mmで濃紫青色。冠毛は灰白色で2輪生、内側の冠毛は長さ8mm、外側は3mm。そう果は黒紫色で長さ4.5mm、無毛。高標高地の明るい林縁に生育する。</p>
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発による生育地の減少、遷移の進行による生育環境の変化、踏みつけ。
		④その他	<p>生育地は富士箱根伊豆国立公園の特別地域、都道府県指定鳥獣保護区特別保護区域に含まれる。</p> <p>御蔵島では、自然保護のためにガイド同行で入山する事になっている。</p> <p>本種の種子は保存されている。</p>
<p>27. ヤクシマヒゴタイ (ヤクシマトウヒレン) (<i>Saussurea yakusimensis</i>)</p> <p>分類：キク科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>夏緑の多年草。茎は高さ30～65cm、とくに上部に明瞭な翼がある。根出葉は花期にもあり、長卵状心形で両端が矛形になり、長さ11～18cm、幅7～12cm、先端は短く尾状に尖る。葉柄は長さ8～11cm、翼がある。花は9月、淡い紅紫色。頭花は7～10数個が散房状に密集してつく。総苞は筒形、直径6～7mm、総苞片は6列。外片は卵形、鋭頭。高所の岩場に生える。</p>
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	シカ食害。
		④その他	<p>屋久島国立公園の指定植物である。</p> <p>生育地は屋久島国立公園の特別保護地区、特別地域、屋久島森林生態系保護地域の保存地区、鹿児島県鳥獣保護区・特別鳥獣保護地区に含まれる。</p> <p>播種等による増殖が可能である。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>28. シリベシナズナ (<i>Draba igarashii</i>)</p> <p>分類：アブラナ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>果期には高さ18～24cmとなる多年草。根茎はよく分枝して、無花茎と有花茎を伸ばす。無花茎の茎葉は4～8個、2分毛があり、ときに星状毛が混じる。有花茎の根出葉は倒披針形、長さ3cm、幅4～7mmに達し、鋭頭、全縁または1～2個の鋸歯があり、両面に星状毛がある。茎葉は楕円状卵形、長さ21mm、幅8mmになり、少数の鋸歯があり、鋭頭、無柄。花期は6～7月。花は白色、総状花序に3～23個つく。花柄は開出し、単純毛と2分毛が密生し、果期に長さ6～15mmとなる。花弁は長さ4.5～5mm。短角果は披針形、長さ7～10mm、単純毛があるか時に2分毛があり、まれにねじれ、残存花柱は長さ1～1.8mm。種子は卵形、長さ1.3mm、付属体はない。モイワナズナに似るが、全体大型で、残存花柱が短い点で異なる。石灰岩地に生える。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>北海道に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>生育環境の変化、採取。</p>
		<p>④その他</p>	<p>大平山自然環境保全地域の特別地区内野生動植物保護地区では保護すべき野生動植物種に指定されている。生育地の一部は北海道立狩場茂津多自然公園の特別地域、植物群落保護林、大平山自然環境保全地域、北海道指定鳥獣保護区等に含まれる。栽培増殖は播種等により可能である。インターネットショップによる取引が確認されている。</p>
<p>29. コキンモウイノデ (<i>Ctenitis microlepigera</i>)</p> <p>分類：オシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>常緑性のシダで、根茎は斜上する。葉柄は長さ3～13cm、基部の鱗片は長さ12mm以下で軟らかい。葉身は三角状広卵形、長さ5～22cm、幅5.5～19cm。3回羽状中裂～深裂、中軸の鱗片は褐色～黒褐色で細長く、長さ2～3mm。側羽片は広三角形～長楕円状披針形で、長さ3～8cm、9～13対ある。孢子嚢群は円形で、ほぼ全体につき、中肋と辺縁の中間生。樹林内の湿った岩上に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>東京都に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>乾燥化による生育環境の変化、外来植物による被陰、産地局限。</p>
		<p>④その他</p>	<p>小笠原国立公園の指定植物である。生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>30. キリシマイワヘゴ (<i>Dryopteris hangchowensis</i>)</p> <p>分類：オシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、イ、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>常緑多年草。根茎は短く斜上し、葉柄は通常短く、長さ13cm前後。葉は長さ60cm前後、幅15cm前後で葉身は披針形または長披針形となる。一回羽状で浅裂、しかし、下部羽片の基部裂片は独立する。羽片は30対前後と多く、羽片基部はやや心形となり、短い柄が明らかである。葉柄、葉軸には線状披針形から線形の黒褐色を呈する鱗片が特に密に着き、鱗片辺縁は顕著な刺状突起が多い。また本種は特にワカナシダと近似するが、以上にあげた特徴の他に葉身が鮮緑色となること、葉質が草質であること、脈が葉面でへこまないこと、葉柄、葉軸が普通わら色であることで区別できる。無融合生殖のワカナシダとは異なり、日本産イワヘゴ類において数少ない有性生殖の2倍体である。山中の林下に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>徳島県、宮崎県、熊本県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取、シカの食害による個体数の減少。</p>
		<p>④その他</p>	<p>霧島錦江湾国立公園の指定植物である。徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例に基づき、指定希少野生生物に指定されている。日本植物園協会加盟園での保有あり。地元による保護活動が実施されている。</p>
<p>31. サクラジマイノデ (<i>Polystichum piceopaleaceum</i>)</p> <p>分類：オシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>常緑性。根茎は短く、斜上し、塊状となり、鱗片がある。葉柄は長さ15～30 cm、葉柄の鱗片は三角状披針形～披針形、黒色で、淡褐色の狭いへりがあり、長さ13～15mm、幅3～7mm。葉身は2回羽状複生し、狭長楕円形で鋭尖頭、長さ25～60 cm、幅8～17cm。中軸には密に鱗片があり、鱗片は披針形～線形、黒褐色～茶色。羽片は線状披針形、先端に向けてしだいに狭くなり、長さ5～9cm、幅1～2cm。小羽片は長さ約1cm、幅約0.5cm、卵状長楕円形、辺縁には鋭い刺が斜めに開いてつき、下面には微小な鱗片がつく。葉質は硬紙質。胞子嚢群は脈に頂生して、やや中肋寄りにつき、包膜は宿存性、辺縁には不規則な突起がある。溶岩の割れ目の空洞の傍らの、年間を通じて同じ温度と湿度の風が吹きだしている場所の林床に生育する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>佐賀県、鹿児島（絶滅の可能性あり）に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>採取、各種開発に伴う生育環境の変化、生育環境の悪化（火山灰の降下、低木層の被陰等）。</p>
		<p>④その他</p>	<p>霧島錦江湾国立公園の指定植物である。地元により生育地の環境整備等が実施されている。インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>
<p>32. セキモンノキ (<i>Claoxylon centinarium</i>)</p> <p>分類：トウダイグサ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>常緑小高木。高さ4～5m、時に8mになる。樹皮は暗褐色。全株無毛。葉は単葉で互生し、葉柄は7～9cm、葉身は長楕円形～卵状長楕円形または広倒披針形、基部はゆがんだ円形で、長さ10～20cm、縁は波打ち、細かい鋸歯がある。雌雄同株。花期は3～4（～6）月。花序は腋生し、総状。雄花は緑白色で、径約3mm。雌花は半球形で、球形の子房が目立つ。蒴果は三角状球形、いぼ状の黒点があり、熟して黄褐色になる。土壌の深い湿った樹林にまれに生える。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	動物（ノヤギ）による食害、病害虫による被害、産地局限。
		④その他	小笠原国立公園の指定植物である。 生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。 日本植物園協会加盟園での保有あり。 種子の播種取り木による増殖が可能である。次世代の更新がほとんどない。
33. リュウキュウキンモウワラビ <i>(Hypodematium fordii)</i> 分類：キンモウワラビ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類（CR）	ア、ウ、エ	①種の特徴	常緑の多年草。根茎は短く這い、岩隙に着生し、黄金色の柔らかい鱗片で覆われる。葉はやや接近してでて、葉柄は長さ5～10cm、葉身は長さも幅も3.5～20cm、三角状長楕円形～五角状卵形、2～3回羽状複生。葉身は葉の各部に腺毛があり、孢子嚢群は裂片の辺縁と中肋の中間に生じ、包膜は円腎形か馬蹄形、包膜にはまばらに腺毛がある。隆起サンゴ礁の石灰岩地の切り立った崖の岩肌の窪みに生える。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、採取。
		④その他	沖縄海岸国定公園、奄美群島国定公園の指定植物である。 生育地はやんばる国立公園の特別保護地区、特別地域に含まれる。 日本植物園協会加盟園での保有あり。 インターネットオークション（一部は沖縄産と明記）による取引が確認されている。
34. マルバタイミンタチバナ <i>(Myrsine okabeana)</i> 分類：ヤブコウジ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類（CR） 固有種	ア、ウ	①種の特徴	常緑低木。高さ2～5m。葉は狭倒卵形から倒卵形または長楕円形、長さ1～7cm、葉柄は長さ2～15mmで暗紫紅色となる。雌雄異株。花序は前年または前々年の枝の葉腋痕から散状または散房状に出て、花は1～5月に咲く。花冠は淡紅色、長さ2～2.5mm。果実は球形、暗紫色に熟し、径3.5～4mm。尾根や岩場などの乾燥した矮小型の低木林に生育する。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	動物（ノヤギ）による食害、外来植物による被圧、植生遷移に伴う被圧。
		④その他	小笠原国立公園の指定植物である。 生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区、保全利用地区、国指定小笠原群島鳥獣保護区特別保護地区、都道府県指定鳥獣保護区特別保護区域に含まれる。

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
35. ヤクシマヤツシロラン <i>(Gastrodia albida)</i> 分類：ラン科 環境省RLランク：未掲載	ア、ウ	①種の特徴	菌従属栄養性の多年草。花期は6月、果期は7月。陸生草本で葉緑素を欠く。根は少なく、細く、直径約0.8mm。根茎に塊茎があり、紡錘状で、長さ1.5～5cm、直径3～10mm、灰褐色で多数の鱗片葉と根毛に似た細胞のない毛に覆われる。輪生する鱗片葉は披針形で淡黄褐色、長さ1～2mm。花序は直立し、長さ1～5cm、花序軸は直径約2mm、地下部は白っぽく、地上部は淡橙褐色、花梗は3～4節があり、管状の膜になる鞘がある。花軸は5mm未満。種子は紡錘形で長さ1.7～2.2mm。照葉樹林の自然林の林床に生育する。
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発に伴う生育地の減少および環境変化。
		④その他	地元により生育状況調査が実施されている。日本新産報告種である。
36. タブガワヤツシロラン <i>(Gastrodia uraiensis)</i> 分類：ラン科 環境省RLランク：未掲載	ア、ウ	①種の特徴	菌従属栄養性の草本。花期は4月下旬～5月上旬。根茎は塊茎状、紡錘形または円筒形で長さ約3～9cm、径約5～9mm、黄褐色で多数の鱗片葉に覆われる。葉は無い。花序は直立し淡褐色、長さ2～6cm、花序軸は径2～3mm。苞葉は卵形で長さ約4mm。小花梗と子房は長さ約6～10mm。花は1～5、鐘形。わずかにうなずくまたは多少上向きに倒立して咲き、長さ約13mm、径約8mm。萼片と花弁は合着し、5浅裂した花冠状になる。萼片は花弁に類似的で多肉質、花弁の2/3まで合着し、長さ約11～13mm。側萼片は互いに3/5まで合着し、外面は暗褐色、わずかにいぼ状突起があり、全縁。上萼片は真っ直ぐで卵状三角形、先端が凹入し、長さ約5mm、幅約5mm。側萼片は展開し鈍頭。花弁は卵形～長楕円形、長さ約3mm、幅1.5～2mm。唇弁はずい柱の基部まで沿着し、長さ6～7mm、幅2～2.5mm。下唇にはオレンジ色の丸いこぶ状突起がある。上唇は基部がオレンジ色で中部が緑白色、頂部が暗赤色、卵状三角形で、基部は萎縮し、上部に4つの隆起があり、舌状の頂部に向けて2つの隆起がある。ずい柱は真っ直ぐで円柱形、長さ6～7mm、幅2mm、白みがかかり、基部は赤褐色。ずい柱基部はよく発達し、側翼は狭く赤色、縁はずい柱と平行で、鋭頭。嘴状体は長さ約0.7mm。柱頭は基部にある。蒴は半球形、径約1mm。花粉塊は2個。照葉樹林の自然林の林床に生育する。
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発に伴う生育地の減少および環境変化。
		④その他	生育地は屋久島国立公園の特別保護地区に含まれる。地元により生育状況調査が実施されている。日本新産報告種である。

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>37. ハツシマラン (<i>Odontochilus hatusimanus</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省 RL ランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	常緑の地生ラン。茎は高さ10～15cm。葉は4～7枚あって、卵形か楕円形、長さ2～4cm、縁が波をうつ。花茎は苞、子房、萼片の外部とともにあらい毛がある。7～8月、帯紅色の3～7花をやや密につける。苞は披針形で長さ6～8mm。背萼片は卵形、側萼片は広卵形、長さ3mm。側花弁もほぼ同長で、背萼片と接続する。唇弁は萼片より長く、爪部は卵円形、内面の基部につの状の突起を2個つけ、舷部は2深裂する。蕊柱は倒卵形で短い。本属の最北に分布する種で、爪部の縁の突起は属の特徴の名残を示すものである。暖地の常緑樹林下に生育する。
		②分布域	鹿児島県、福岡県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発による生育地の減少、採取。
		④その他	生育地は北九州国立公園の特別地域、霧島錦江湾国立公園の特別地域、甕島国立公園の特別地域、高隈山県立自然公園の特別地域に含まれる。生育地の一部では、地元による巡回が行われている。日本植物園協会加盟園での保有あり。脇芽から増殖でき、無菌播種により栽培増殖が可能である。
<p>38. シマツレサギソウ (<i>Platanthera boninensis</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	地生ラン。花茎を含み高さ30～40cm。葉は長楕円形で円みがあり、基部は葉柄がなく茎を抱き込む。根際の2～3枚の葉は大型である。花期は2月頃で、総状花序に淡黄白色の小花を多数つける。明るい森林内や林縁に生える。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	動物（ネズミ、ノヤギ）による食害、採取、外来植物との競合や被圧。
		④その他	小笠原国立公園の指定植物である。生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、国指定鳥獣保護区の特別保護地区、東京都指定鳥獣保護区の特別鳥獣保護区に含まれる。
<p>39. ハカマウラボシ (<i>Drynaria roosii</i>)</p> <p>分類：ウラボシ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	冬緑性の多年草。根茎は太く径2cmくらいで、長く這い、鱗片を密布する。葉は極端な2型葉で、落葉溜めの泥除葉と栄養と生殖のための普通葉の区別がある。泥除葉は卵形で、長さ4～11cm、心脚、普通用は1回羽状、長さ20～35cm、幅10～17cm、葉柄は長さ5～10cm。羽片は7～13で、幅2～3cm。孢子嚢群は普通葉の下面につき、卵形、包膜はない。明るい林内の樹上または岩上に着生する。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発に伴う生育地の減少、採取。
		④その他	生育地は、やんばる国立公園の特別保護地区、特別地域に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。株分けによる増殖が可能である。インターネットオークションによる取引が確認されている。

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>40. オキノクリハラン (<i>Leptochilus decurrens</i>)</p> <p>分類：ウラボシ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ	①種の特徴	常緑性のシダで、根茎は長く横走し、葉を約1cmおきにつけ、鱗片がある。葉柄は根茎に関節し、葉は二形。栄養葉・孢子葉ともに単葉。中肋は両面に隆起する。葉脈は網状、網目の中には分岐する遊離小脈がある。孢子葉の裏面は孢子嚢で覆われる。樹林内の陰湿な地上や岩上に生育する。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	台風による自生地の崩壊、乾燥化による生育環境の変化、外来植物による被陰、産地局限。
		④その他	小笠原国立公園の指定植物である。生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。インターネットオークションによる取引が確認されている。
<p>41. ナガバエビモ (<i>Potamogeton praelongus</i>)</p> <p>分類：ヒルムシロ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ	①種の特徴	淡水の湖沼に生える沈水性の多年草。ヒロハノエビモに似るが、葉の長さが10～20cm と長く、葉端の縁が内側に反り、葉の基部の茎の抱き方がやや浅い点で異なる。染色体数は2n=52。淡水の湖、運河や低地河川などの水深が深い、中栄養状態の水質で、ゆるやかに流れる水域に生育する。
		②分布域	北海道に分布する。
		③存続を脅かす要因	水質汚濁・富栄養化等による生育環境の変化。
		④その他	生育地は北オホーツク道立自然公園の特別地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区、北海道指定鳥獣保護区特別保護区域に含まれる。栽培は水質、水温に注意する必要がある。
<p>42. キリギシソウ (<i>Callianthemum kirigishiense</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ、エ	①種の特徴	多年草。茎は高さ17～30cm、単純あるいは1回分枝する。根出葉は2～6個、膜質で黄緑色、3回3出の複葉、両面ともに無毛、葉柄は長さ8～15cm、無毛。小葉は扇形、長さ1.5～2cm、幅2～2.5cm、頂小葉の小葉柄は長さ2～8mm。茎葉は1～3個、3全裂～深裂。花期は5～6月。花は単生し、径1.9～2.7cm、白色。萼片は5個、楕円形、長さ4～9mm、幅2～5cm、開出する。花弁5～10個、狭倒卵形～倒卵形、長さ9～13.5mm、幅2.5～7.5mm、円頭あるいは先が少しへこみ、開出し、爪は長さ1mm、両面ともに橙赤色、蜜腺は径1mm。葯は長さ1mm。花糸は長さ2～4mm、無毛、少し広がる。瘦果は卵状球形、長さ3.5～5.5mm、網目状の模様と短い柄があり、花柱は長さ0.5mm、わずかに内曲する。染色体数2n=16。夏緑樹林下、山地の石灰岩地の草地に生育する。
		②分布域	北海道に分布する。
		③存続を脅かす要因	採取、シカ食害。

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
		④その他	<p>北海道生物の多様性の保全等に関する条例の特定希少野生動植物種に指定されている。</p> <p>生育地は富良野芦別道立自然公園の特別地域、植物群落保護林に含まれる。</p> <p>北海道森林管理局による入山制限とモニター登山等が行われている。また、地元によるパトロール等も行われている。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p> <p>播種等による増殖が可能である。</p> <p>インターネットオークション及びインターネットショップによる取引が確認されている。</p> <p>過去に生育地の半分近い個体が採取され激減した。</p>
<p>43. オキナワヒメウツギ (<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>)</p> <p>分類：ユキノシタ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>落葉性の低木。奄美諸島に分布するオオシマウツギの変種であり、高さ1.5～2m。葉は長さ2～3mと小さく、卵円形で、基部は広くさび形～やや円形～浅い心形となる。花序は2出集散状で花数は少なく、3～7花からなる。日当りのよい石灰岩の岩壁に生える。</p>
		②分布域	<p>沖縄県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>産地局限、各種開発による生育地の減少。</p>
		④その他	<p>本種は奄美群島国定公園、沖縄海岸国定公園における指定植物に指定されている。</p> <p>生育地は沖縄県南城市の天然記念物「オキナワヒメウツギ群落」に指定されている。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p> <p>挿し木による栽培増殖は可能である。</p> <p>インターネットオークション及びインターネットショップによる取引が確認されている。</p>
<p>44. ムニンホオズキ (<i>Lycianthes boninensis</i>)</p> <p>分類：ナス科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>多年草。草丈は50～70cm、全体は無毛。葉は楕円形から卵形で全縁。5～9月に葉腋に下向きに1～3個の花を咲かせる。花冠は白色、皿形。液果は球形で赤く熟し、細く10裂した萼片が目立つ。やや湿った林縁や疎林、樹林内に生育する。</p>
		②分布域	<p>東京都に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>乾燥化による生育環境の変化、外来植物による被圧。</p>
		④その他	<p>小笠原国立公園の指定植物である。</p> <p>生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、国指定鳥獣保護区、東京都指定鳥獣保護区、小笠原諸島森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。南硫黄島原生自然環境保全地域に指定されている。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>45. ナガバキブシ (<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>)</p> <p>分類：キブシ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>高さ2mほどになる常緑低木。分枝は少なく、樹皮は暗褐色で無毛。葉は互生し、葉柄は長さ3～5cm、無毛。葉身は狭卵状長楕円形から楕円形で先はとがり、鋭頭から鋭尖頭。基部は広くさび形。縁に先が腺状になる低鋸歯がある。長さ7～14cm、幅3～5.5cm、側脈は5～7対で裏面に突出する。雌雄異株。1～3月に前年枝の葉腋から長さ3～6cmの総状花序が下垂し、雄花序は雌花序より長く、10cmに達し、10～25個内外の雄花をつける。雌花序は長さ3～5cm、ややまばらに10花内外をつける。花序柄、花軸、花柄は無毛。花は淡黄緑色で鐘形。花の径はおよそ5mm。萼片は4個、花弁は長さ5mm弱で萼片と同数。雄ずいは8個で基部に毛がある。雌花の雄ずいは短く、子房は卵球形で有毛、柱頭は4裂する。果序は長さ3～5cm、密に果実をつける。果実は乾いた液果で無毛、広楕円形または卵形あるいは球形、緑色で熟すと黄褐色を帯び、大型となり、径15mm前後だが、長径20mmに達する個体もある。やや湿った低木林内に生育する。</p> <p>ハチジョウキブシは葉がより長く葉質が薄い点で異なる。ハザクラキブシとは重鋸歯縁により区別される。</p>
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	動物（ノヤギ、ネズミ）による食害、植生遷移に伴う被圧、産地局限。
		④その他	<p>小笠原国立公園の指定植物である。</p> <p>生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p> <p>播種による栽培増殖は可能である。</p>
<p>46. ハザクラキブシ (<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>)</p> <p>分類：キブシ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>高さ3～4mになる常緑低木で分枝が多い。ナガバキブシに比べ、葉は薄く、やや大きく長楕円形で、長さ10～15cm、幅3.5～6cm、側脈は7～11対。縁に細鋸歯が多数ある。雌雄異株。11～2月に葉腋から長さ10～14cmの総状花序が下垂し、淡黄緑色の花を咲かせる。雌花序は花後に伸長して、果序は長さ30cmに達し、果軸は無毛、多数の果実をつける。果実は楕円形、長さ1～1.2cm、径7～8mm、無毛。やや湿った樹林内に生育する。</p> <p>ナガバキブシとは重鋸歯縁により区別される。</p>
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、植生遷移に伴う被圧、個体数減少に伴う結実の減少、乾燥化による生育環境の変化。
		④その他	<p>小笠原国立公園の指定植物である。</p> <p>生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、特別地域、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。</p> <p>日本植物園協会加盟園での保有あり。</p> <p>播種による発芽は可能であるが、夏を越せない場合が多い。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
47. ヒシバウオトリギ (アツバウオトリギ) <i>(Grewia rhombifolia)</i> 分類：シナノキ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)	ア、ウ	①種の特徴	落葉性小高木。高さ1m未満で、ときに匍匐する。若枝には星状毛が密生する。葉身は厚く、縁には鋸歯があり、菱状倒卵形から卵形ときに円形、長さ1.5～15cm、幅1～7cm、両面に星状毛がまばらに生える。花期は7月、葉腋に散形花序を出し、数個の花をつける。萼片は5枚、長さ4～8mm、花弁は5枚で目立たない。雄蕊は多数。果実は4つの分果にわかれるが、そのうちの1～3つは熟さないことがある。分果は扁球であり、熟すると暗褐色。海岸近くの風衝地や岩上に生える。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、各種開発による生育地の減少、踏みつけ。
		④その他	生育地は国指定登録記念物に指定されており、西表石垣国立公園の特別地域に含まれる。日本植物園協会加盟園での保有あり。
48. ヤクシマソウ <i>(Sciaphila yakushimensis)</i> 分類：ホンゴウソウ科 環境省RLランク：未掲載固有種	ア、ウ	①種の特徴	菌従属栄養性の多年草。花期は8月初旬～10月初旬。直立し全草帯黒紫色で茎は分岐しないかまたは基部で分岐する。地下部は白色。根は糸状。茎は無毛で高さ3～9cm、径約0.6mm。鱗片葉は鋭形で約2mm。単性の花からなる長さ2～5cmの花序を茎頂につける。総状花序は粗く、6～15花をつけ、上部に雄花がつく。小花梗は長さ2～5mm、花より長く、まっすぐで、茎から60～90度の角度で開出してつく。苞葉は線形で鋭頭、長さ約1.5mm、小花梗に密着する。雄花は径約1.5mm、花被片は(5～)6、基部で合着し、狭い卵形で鋭尖頭。3つの花被片は、先端に球体をつけ相対する花被片よりわずかに幅広い。雄しべは3。葯隔は伸びない。花糸は無柄。葯は4浅裂。雌花は径約1.5mm、花被片は6、基部で合着し、卵形で鋭尖頭。心皮は多数、長さ約0.4mm、頂端は球形。花柱は棍棒形、腹面の中央より上部に長さ約0.3mmの円筒形乳状突起を密につける。地上部全体が黒紫色である点、雄花の花糸が葯の高さを超えない点、雌花の花柱が棍棒状で多数の乳頭状突起をもつ点でホンゴウソウと異なる。照葉樹林の自然林の林床に生育する。
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発に伴う生育地の減少および環境変化。
		④その他	地元によって生育状況調査が実施されている。2016年に記載された日本新産報告種である。。

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
49. セキモンウライソウ <i>(Procris boninensis)</i> 分類：イラクサ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) 固有種	ア、ウ	①種の特徴	高さ40～60cmになる常緑の多年草。茎は無毛で稜があり、多汁質であるが、基部は木質化し、地表を這いながら分枝して斜上する。葉は有柄で枝先に多くつき互生する。葉柄はふつう長さ5mm内外。葉身は肉質無毛、ふつう長さ6～10cmほどの長楕円形から倒披針形で、先はやや尖り、基部は鋭形で、上方の葉縁にある鈍鋸歯は先端に向かうにつれ明瞭になる。表面は鮮緑色、裏面は淡緑色で、裏面に突出する側脈が目立ち、両面に鍾乳体が見られる。5～6月頃、下方の葉腋に淡緑色頭状で単性の団集花序をつける。花序は雌雄とも径数mm、花被片は4または5個あり、雄花では花被片下部が合着する。雄ずいは花被片と同数。雄花が開葯する頃、花序を出した葉が脱落して「茎生花」状を呈する。果実はやや扁平な卵形の瘦果で7月頃熟す。樹林内の石灰岩上に生育する。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	台風による森林環境の変化、外来種による被陰、産地局限。
		④その他	小笠原国立公園の指定植物である。 生育地は小笠原国立公園の特別保護地区、森林生態系保護地域の保存地区に含まれる。また、東京都の島しょ地域における自然の保護と適正な利用に関する要綱に基づき締結された小笠原諸島における自然環境保全促進地域の適正な利用に関する協定の対象地域が含まれる。 日本植物園協会加盟園での保有あり。挿し木により栽培増殖が可能。

※選定要件について

○希少野生動植物種保存基本方針(平成4年総理府告示第24号) (抄)

第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）で、以下のいずれかに該当するものを選定する。

ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種

イ 全国の分布域の相当部分で生息地又は生育地（以下「生息地等」という。）が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種

ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種

エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種